

平成17年第3回大仙市議会定例会

市 政 報 告

平成17年12月6日
大仙市長 栗林次美

本日、平成17年第3回大仙市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位のご参集をいただきまして誠にありがとうございます。

今次定例会で審議をお願いいたします案件は、条例案8件、単行案7件、補正予算12件の合計27件のほか、(仮称)新協和体育館建設(建築)工事に係る工事請負契約に関する単行案並びに助役の選任、固定資産評価委員の選任及び人権擁護委員の候補者の推薦に係る人事案件について、準備が整い次第、追加提案する予定であります。

各案件につきまして、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

なお、この場をお借りいたしまして、本年度の各部局毎の主要事業の進捗状況並びに諸般の状況をご報告させていただきます。

始めに、総務部関係について申し上げます。

行政改革につきましては、公募によりワークショップに参加した皆様から11月11日、行政改革提案書が提出され、現在、この提案書を踏まえ、職員で構成するワーキンググループにおいて行政改革大綱の策定作業を進めております。また、11月30日には委員10名からなる行政改革懇談会の第1回会議を開催いたしました。

指定管理者制度につきましては、法の制約により制度の導入ができない施設や業務の専門性、特殊性などから市が直接管理することが適当と判断される施設以外は、原則として制度の導入を進めてまいりたいと考えており、現在、管理委託契約をしている施設について、平成18年4月1日から指定管理者制度に移行させるための関係条例案を今次定例会にお願いしております。また、現在、市が直接管理運営している施設についても、指定管理者制度導入の可能性を検討し、順次、導入を進めてまいりたいと存じます。

平成18年度の職員採用につきましては、去る10月4日・5日に二次試験を実施し、最終合格者は、死亡退職者や早期退職者が出たこと及び不足している技術系職員を考慮して、当初予定を3名上回る23名としたところであります。

次に、企画部関係についてであります。

総合計画につきましては、市民4,000名を対象とした市民意識調査や、一部公募を含めた18名の市民によるワークショップ、若手職員による作業部会の意見などを踏まえ、現在、総合計画への助言をお願いしました専門委員と年度内策定を目指し作業を進めており、素案がまとまり次第議会にお示しいたしたいと存じます。

真木ダム代替案検討につきましては、11月29日、「第3回真木ダム代替案検討プロジェクトチーム会議」が開催され、代替案の素案が報告されており、12月11日には、この素案について関係地域の皆様に説明し、意見を伺うための住民説明会を開催することとしております。

国際交流につきましては、旧西仙北町が「大綱引き」を機縁として交流を続けている大韓^{たんじんぐん}唐津郡の郡守から、平成18年4月6日から開催される機^き池^じ市の「綱引きの大祭行事」への正式な招待状をいただいております、刈和野大綱引保存会や青少年などを中心とした訪問について検討中であります。

国勢調査につきましては、市における調査票等の審査を終え、現在、県による審査受領が行われており、人口の速報値は年内に公表される予定であります。が、当市の人口は前回調査に比較し、約5,000人の減となる見込みであります。

地域協議会につきましては、地域協議会の役割、各地域自治区の今年度の主要事業、旧議場などの施設の活用や地域の課題、それに係る現地視察等を中心に各地域で3回目の協議会が順次開催されております。

平成18年度予算では、各地域がそれぞれの課題に適切に対応するための総合支所枠予算の創設や、地域協議会から提案された事業の予算化等につきまして検討し、協議会の更なる活性化を図ってまいりたいと考えております。

自治会支援事業につきましては、10月末現在で、市内600の町内会、集落会のうち399が支援事業実施の自治会として登録し、補助申請を提出しております。

個性豊かな地域づくり事業につきましては、太田地域^{こがなり}小神成自治会の「花の駅」設置、仙北地域本郷集落会の「農村公園整備」の2事業について申請があり補助決定をしております。

男女共同参画につきましては、大仙市秋の稔りフェアにおいて「男女共同参

画展コーナー」を設置し意識啓発活動を展開したところであり、10月に策定いたしました「大仙市男女共同参画プラン」を市内の学校や事業所などに幅広く配布し、更なる啓蒙普及を図ってまいります。

また、11月29日に、県と大仙市の主催による、県南地域を対象とした知事と語ろう「イキイキ職場支援フォーラム」を開催し、県と企業との間で「男女イキイキ職場宣言事業所」の協定が結ばれております。

秋田わか杉国体につきましては、プレリハーサル大会として行われました「第32回東北総合体育大会」の軟式野球及びなぎなた競技に、競技団体や市内高校生、市職員など341名から競技役員や係員としてご協力いただいております、この場をお借りして感謝申し上げたいと存じます。

また、9月21日から10月8日まで岡山県で開催された「第60回国民体育大会晴れの国岡山国体」を、競技団体役員や市議会議員、市職員など25名で視察し、明年度のリハーサル大会と国体本番に向けた課題の検討を行ったところであり、1月には、リハーサル大会の具体的な準備を進める実施本部を立ち上げる予定であります。

次に、市民生活部関係についてであります。

交通安全対策につきましては、秋の全国交通安全運動期間中、交通指導隊をはじめ関係機関、団体による巡回指導、街頭指導を実施いたしました。

大仙警察署管内の12月1日現在での交通死亡者は、昨年同期に比較し7名増の16名となっており、県警では、11月25日から12月2日まで全県交通死亡者事故多発警報を発令し、取締の強化を図っております。

これから本格的な冬を迎え、また飲酒の機会が多くなる年末年始を迎えますが、路面状況に応じた安全運転の励行やスリップ事故防止、飲酒運転の撲滅・徹底追放に努めてまいります。

消防につきましては、秋の火災予防運動期間中、チラシ配布による防火意識の高揚を図るとともに、消防車両による巡回広報活動、水利点検などを行っております。

去る10月2日、神岡地域の78歳の男性の捜索願が親族から出され、10月3日から5日までの3日間、大仙警察署、広域消防本部、市消防団神岡

支団、南外支団、市職員など延べ280名で捜索しましたが発見に至ることができず、11月13日に遺体で発見されており、心からご冥福をお祈りいたします。

また、10月11日と10月31日には協和地域でキノコ採りで入山した高齢者の方の捜索願が出されましたが、幸い怪我もなく無事に発見されており安堵しております。

消防施設の整備につきましては、大曲地域の防火水槽5基は11月25日に、消火栓4基は12月27日に完成の予定であります。

西仙北地域の防火水槽1基は10月25日に完成しており、中仙地域のポンプ2台は12月1日に入札を終えております。

協和地域の防火水槽1基は12月20日に完成の予定であり、消火栓2基、サイレン3基、格納庫3棟はすでに完成しております。

南外地域の防火水槽3基は11月30日に完成、消火栓27基は発注済みであり、仙北地域の防火水槽1基は11月11日に完成、格納庫4棟のうち2棟は8月31日に完成、残る2棟も12月10日には完成の予定であります。今後も既存の設備と合わせて消防力の強化、整備充実に努めてまいります。

平成18年1月5日には、大仙市消防団として初めての出初式を予定しており、団員800名が1年の無火災を祈願するとともに、一層の団結を図ることにしております。

なお、消防活動服につきましては、11月18日納品され、中仙支団、南外支団の各団員に配付したところであり、これにより大仙市消防団全員に新規格の消防活動服が支給されたこととなります。

青少年健全育成につきましては、「青少年育成大仙市民会議」が10月19日に設立され、11月1日には、大曲駅において県民会議、仙北地方推進連絡協議会と合同で街頭啓発活動を実施するなど、本格的な活動を行っております。

市立大曲病院事業につきましては、本年の4月から10月までの入院患者数が、一般精神病棟で延べ14,442名、病床利用率は96.4%、痴呆病棟が延べ9,379名で病床利用率は87.7%となっております。

入院全体では延べ23,821名、病床利用率は92.8%で、前年度同期

と比較して入院延べ患者数で282名の減、病床利用率では1.1ポイントの減となっております。

また、外来患者数は、延べ7,622名で、前年同期と比較して584名の増であり、診療日1日当たりでは52.9名で、4名の増となっております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

新市の老人保健福祉計画となる「大仙市高齢者プラン」につきましては、地域の代表者や有識者による策定協議会を開催するなど、年度内の策定に向けて取り組んでおります。

10月に実施した高齢者実態調査では、回収率70%を超える1,798名から回答を得ており、今後は、調査結果をもとに、広域市町村圏組合で策定している「第3期介護保険事業計画」など、関連する計画との整合性を図りながら作業を進めてまいります。

大仙市社会福祉協議会が旧清水へき地保育所を改修し設置する、知的障害者通所施設「まつくら」の分場計画及び（仮称）社会福祉法人明^{あけとおりがい}通^{あけとおりがい}会が内小友^{あけとおりがい}字明^{あけとおりがい}通^{あけとおりがい}地内中沢工場団地に建設を予定している特別養護老人ホーム「テnderヒルズ」につきましては、県のヒアリングが終了し、今後は国の補助金及び交付金事業としての採択に向け取り組むと伺っております。

なお、「テnderヒルズ」の建設用地について、市に対し貸与の申し入れがあり、これを了承することとしておりますが、施設整備計画の承認や社会福祉法人の設立認可を得るためには、年度内に大仙市土地開発公社の分譲地を取得し貸与する必要があり、大仙市土地開発基金を活用し用地を取得する予定であります。

児童健全育成につきましては、統合により廃園となりました旧峰吉川保育園を一部改修し、平成18年1月1日から児童館として使用することとして、関係条例の一部改正を今次定例会にお願いしております。

「健康大仙21計画」の策定につきましては、保健医療機関、団体等の代表者による策定委員会を設置し作業を進めているところであり、中学生、高校生1,000名及び20歳以上の市民2,500名を対象に実施しました「健康と生活習慣に関するアンケート」調査では、計2,412名から回答を得てお

り、アンケート結果や各種保健衛生データを基に作業を進め、市民が健康で明るく元気に生活できることを目的とした計画書を年度内に策定したいと考えております。

次に、農林商工部関係についてであります。

稲作につきましては、10月15日現在の農林水産統計によりますと、全国の作況指数は「101」、秋田県では「100」の平年並みと発表されており、県南についても、一部地域でカメ虫被害が見られましたが、もみ数^{かず}や登熟が平年並みと見込まれることから、10a当たり581kgで作況指数「100」となっております。

このことから、作況指数「101」以上の豊作時に発動される「集荷円滑化対策」は秋田県では発動されないこととなりました。

平成17年産米の管内の買い入れ状況につきましては、水稻生産実施計画提出者の作付確定面積12,580haに対し、生産確定数量が71,986t、約120万俵となっており、11月17日現在の出荷状況は、106万8千俵余りの出荷目標に対し103万8千俵余りの出荷実績で、出荷率97.2%、一等米比率は92.7%で前年同期より2.6ポイント低くなっております。

10月22日・23日に開催した「大仙市秋の稔りフェア」につきましては、全市の直売所が一堂に会したコーナーを中心に、多くの人々よりご来場いただき、盛会裏に終了いたしました。

第128回秋田県種苗交換会につきましては、11月1日から7日まで鹿角市で開催され、出品総数2,412点のうちJA秋田おぼこ管内からは356点が出品されております。大仙市からは「水稻」、「漬物類」、「乾牧草^{かんぼくそう}」の3部門で農林水産大臣賞を、「水稻」、「切り花」、「ハトムギ」、「葉たばこ」、「ホウレンソウ」、「漬物類」、「乾牧草」の部門で12点が秋田県知事賞を受賞するなど高い生産技術力が評価されております。

農業集落排水事業につきましては、本年度計画いたしました管路施設については、大曲西部、神岡西部、田ノ尻、下淀川、沢庄、板見内、太田今泉地区で、処理場建設については大曲西部、下淀川、太田今泉地区で工事が行われ順調に推移しており、峰吉川地区の管路施設については実施設計を委託しております。

出稼ぎ対策につきましては、11月25日現在の出稼ぎ者数は403名で、援護事業として実施している就労前健康診断の受診者数は203名となっております。今後は、就労中の健康診断の推奨や就労先への広報等の送付による地域情報の提供を行ってまいります。

雇用対策につきましては、若年層の地域定住を促すため雇用助成金制度を新市に引き継ぎ、制度活用についてPRに努めております。

本年度の交付実績は、前年度の適用事業所に対するものでありますが、10月末現在で、12事業所に対し330万円の交付で、新規雇用者の内訳は、45歳未満が6件、新規学卒者が8件の合わせて14件となっております。

なお、ハローワーク大曲管内の平成18年3月高校卒業予定者の10月末における就職内定状況につきましては、県内就職希望者396名のうち内定者は202名、内定率51.0%となっており、前年同期と比較して3.9ポイント上昇しております。

しかしながら、県内就職希望者が昨年より多くなっていることから、昨年同期よりも4名多い194名が未だ就職内定に至っていない状況であり、引き続き雇用の確保に努めてまいりたいと存じます。

工業振興につきましては、大曲地域に進出が決定しております株式会社丸和製作所の操業について、当初10月の予定でしたが、受注の関係などから平成18年1月頃の操業開始に向け、準備を進めていると伺っております。

中心市街地活性化対策につきましては、TMO大曲が募集した、空き店舗を利用した施設に、花火関連の展示コーナーと地域ボランティアグループによる休憩スペースが設けられており、10月末現在の利用者数は14,055名で、1日平均70.6名となっております。

商店街環境整備補助金につきましては、大曲地域の7団体、協和地域の2団体、太田地域の4団体から合計271基の街路灯維持費に関する補助申請がなされております。

技能功労者表彰につきましては、8月末までに各地域の業界団体から推薦いただき、9月27日の6名の委員による選考を経て、管工事、建築、建築大工、さく井工事の4分野から5名を顕彰申し上げることとし、表彰式典並びに祝賀

会を去る11月11日に挙行いたしました。

観光推進につきましては、新たに作成した大仙市観光パンフレットと市のホームページとの整合性を図りながら、観光情報を発信し、観光交流人口の拡大に努めてまいります。

次に、建設部関係についてであります。

まちづくり交付金事業につきましては、(仮称)新協和体育館建設(建築)工事に係る入札を12月中旬に予定しております。

都市公園事業につきましては、大曲地域の飯田沼つり公園について、周辺町内会及び愛護会並びに釣り研究会などの参加を募り、再整備に関する検討会を行っており、本年度中には基本計画をとりまとめたと考えております。なお、検討会で老朽化が著しく改修の要望がありました公園内の橋については、安全確保の観点から緊急を要しますので、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

市道の整備につきましては、事業費ベースで道路等工事の発注率は11月10日現在、54.3%となっております。

各総合支所毎における11月10日現在の道路等の整備状況は、大曲地域の市道改良、舗装、側溝改良は、合わせて43路線のうち15路線が発注済みで、発注率は41.7%となっております。

神岡地域の地方特定道路整備事業及び単独事業の改良、舗装工事5路線の発注率は87.2%、西仙北地域の臨時交付金事業及び単独事業の改良、舗装工事5路線の発注率は73.4%、中仙地域の臨時交付金事業及び単独事業の改良、舗装工事10路線の発注率は27.0%となっております。

また、協和地域の単独事業の改良、舗装工事10路線の発注率は59.5%、南外地域の過疎対策事業及び単独事業の改良、舗装工事8路線については発注率56.3%、仙北地域の地方特定道路整備事業及び単独事業の改良、舗装、橋梁架替工事4路線については発注率28.6%、太田地域の臨時交付金事業・市道横沢バチ沢線の工事進捗率は80.0%となっており、順調に推移している状況にあります。なお、未発注工事についても調査測量設計を発注するなど早期発注に向け準備を進めております。

今冬の除雪体制につきましては、全市の除雪延長約1,808kmを直営オペレータ70名と除雪車104台及び委託業者87社での除雪を計画しております。今季は、旧市町村の作業体制で望むこととしておりますが、新たに各総合支所に除雪自動通報システム22台を配備し、降雪量10cmでセンサーが感知し出動命令を発信することとなっており、安全で円滑な道路交通を確保するため効率的な除雪に努めてまいります。

公共下水道事業につきましては、本年度計画延長11.4kmを発注済みであり、一部工事を除き年内に完了する見込みであります。

平成18年度から19年度に増設を予定している「刈和野浄化センター」につきましては、11月1日に実施設計を発注済みであり、年度内の完成を予定しております。

なお、平成21年度の一部供用開始に向けて、「南外浄化センター」の実実施設計等について、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業の建物移転補償につきましては、本年度移転対象物件51戸中41戸、借家人補償は35件中34件の権利者と契約済みであり、現在、残る権利者と引き続き交渉中であります。

工事関係につきましては、大曲丸の内町地区において8月中旬に整地工事、9月上旬に水路新設工事、9月下旬に整地工事及び区画道路新設工事をそれぞれ発注済みであります。

次に、国、県関係工事についてであります。

国道13号大曲バイパス4車線化事業につきましては、新玉川橋上部工事は舗装工事を除き桁架設、床版工事が概ね年度内に完了の予定であり、花館高架上部工事はJRを跨ぐ3スパンを除き、10月に工事発注を終え、現在桁の製作準備中であります。また、東川地内から和合地内の大曲西道路との接続点までの約600m区間については平成18年3月の供用開始に向け、順調に推移していると伺っております。

国道13号神宮寺バイパス事業につきましては、間倉跨線橋上部工事は桁の架設工事中で、大浦跨線橋下部工事は全体下部工10基のうち、本年度分の7基が概ね完了し、本年度予定分の盛土工事はほぼ完了、用地買収の契約は完

了していると伺っております。

^{つちかがわ}土買川築堤事業、^{すいしゃくぼし}水尺橋架替工事につきましては、左岸橋台1基と橋脚1基の早期発注に向け準備を進めていると伺っております。

大曲西道路事業につきましては、大曲インターから山根ランプ間の明^{あけとお}通工区は年内に舗装工事と法面工事を、飯田ランプからJR間の飯田工区は大型ボックス設置工事3箇所と盛土工事は年度内に完了の予定と伺っております。

市道坪立線の迂回路につきましては、年内に完成しますが、供用開始は国道13号交差点への信号機の設置後の平成18年度の早い時期になると伺っております。

大曲橋架替工事につきましては、現在用地測量及び物件調査が終了し、去る11月17日に金谷地区での用地説明会が開催されており、西根地区についても近く開催の予定と伺っております。

主要地方道四ツ屋神岡線につきましては、本年度の用地買収及び物件補償をほぼ完了し、一部付帯工事の発注を予定しており、平成18年度の事業完了と伺っております。

国道105号県単独改築事業につきましては、四ツ屋地内農業研究センターからJA四ツ屋給油所まで本年度で完了の予定と伺っております。

次に、水道局関係についてであります。

上水道事業につきましては、福田町、川目字町東及び大曲西根字上成沢地内の配水管拡張工事並びに大曲あけぼの町地内の配水管改良工事がそれぞれ9月下旬に完了しております。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業に伴う大曲丸の内町地内の配水管移設工事及び蛭川地区石山下、上屋敷、段長根、大方寺地内の配水管布設工事につきましては、10月中旬に発注済みであります。

また、継続事業の老朽管更新工事は、第1工区の花館地区上大戸下川原、下大戸及び西台地内並びに第2工区の花館地区唐関、中台及び萩台地内が10月下旬に完了し、12年間に渡る本事業を終了しております。

簡易水道事業につきましては、西仙北地域刈和野地区簡易水道導水管・配水管布設工事を10月中旬に、また5カ年計画の最終年度となります南外地域

簡易水道再編推進事業の全ての配水管布設工事を、10月下旬に発注済みであります。

仙北南地区の水道につきましては、緊急を要することから、大曲地区の上水道を水源とする簡易水道統合整備事業を平成18年度・19年度の2カ年事業として実施すべく、国庫補助要望を10月下旬提出し、県のヒアリングを終えております。なお、本事業に伴う大仙市上水道事業経営変更認可申請書作成業務委託について、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

次に、教育委員会関係についてであります。

生涯学習につきましては、生涯学習推進計画に関する市民意向調査を実施し、回収率51.5%の1,031名から回答をいただいております。今後、この結果を取りまとめ市民の意識を的確に把握した計画を策定してまいります。

また、10月31日に東京で行われました「第58回優良公民館表彰式」で、神岡中央公民館の「地域住民の学習活動と一体となった生涯学習活動」が評価され、文部科学大臣表彰を受賞しております。

市民大学講座につきましては、9月から10月まで8回の講座を終了し、延べ880名の参加を得ております。

社会教育施設の整備につきましては、北檜岡公民館建設事業及び（仮称）八乙女研修宿泊施設大規模改修事業の設計委託について、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

文化財保護につきましては、大仙市誕生記念事業として、9月17日から19日に「鈴木空如の信仰と芸術展」、10月28日には「大仙市内国指定文化財めぐり」を実施いたしました。

また11月5日・6日の両日、「国指定名勝池田氏庭園の特別公開」を行い、県内外を含む5,200名の方々に鑑賞いただき、文化財の普及啓発を図るとともに、文化財の保護と活用に寄せられる期待を実感したところであります。

最後に、平成18年度当初予算編成について申し上げます。

国と地方の税財政改革である三位一体改革の全体像が11月30日の政府・与党の合意で決定しており、総額4兆円の国庫補助負担金の削減と3兆円規模

の税源移譲については、当初の目標に達成しております。最大の焦点でありました生活保護費については、地方の主張に沿った形で決着しましたが、補助金改革の中で地方案に沿ったものが少なく、半分以上が国庫負担率の引き下げにとどまっており、国の関与が残り、地方分権の推進には課題を残しております。

また、地方交付税の見直しにつきましては、今後の予算編成を通じて具体的な調整を行うとしており、地方財政の命綱とも言える地方交付税の削減は必至の状況にあり、地方交付税への依存度が高い本市にとりましては、その影響が懸念されます。

また、県内経済は一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態が続いており、国内経済がゆっくりとした改善の動きを示している中において、地方への波及効果はまだ見受けられない状況であります。

このような状況下、平成18年度の本市の財政は、歳入においては市税収入が依然として低い水準にあり大幅な好転が望めないことや、地方交付税についても、算定の基礎となる人口の減少及び国の歳出ベースでの縮減などから、一般財源の確保に苦慮しているところであります。

歳出におきましては、継続事業である大型プロジェクト事業の一般財源の増加や新規重点施策への対応など、大幅な歳入不足が懸念される状況にあります。

厳しい財政状況であります。平成18年度は大仙市総合計画のスタートの年であり、「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」の実現に向けて、様々な課題を計画的に推進する必要があります。国の施策や経済対策、地方財政対策を見極めながら、予算編成の基本的な考え方を次のように定めたところであります。

1点目は、本年度策定の「大仙市総合計画」の中で、住民が何を要望しているのかを的確に把握することにより施策を決定すること。2点目は、予算編成は健全財政を貫くことを念頭におき、基礎的財政収支の改善を図り、財源として合併特例債を含めた市債の発行についても慎重に対応すること。3点目は、平成16年度決算における経常収支比率98.4%の改善が喫緊の課題であり、歳出全般にわたる徹底した見直しを行い経常的経費の縮減に努めること。4点目は、平成18年度の一般財源の見込みについて本年度より厳しい状況にあり、限られた財源の有効利用を図るため、予算配分の重点化・効率化を実施するこ

と。そして、5点目として、市単独の各種補助負担金については、市としての統一した考えの基、見直しを図ることとしております。

大仙市は8市町村が合併し、新たな自治体としてスタートしたばかりであります。未来の子ども達に夢のある地域を残してゆくことが、私どもの責務と考えておりますので、市議会議員各位並びに市民の皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。招集の挨拶並びに諸般の報告とさせていただきます。